

みんなが楽しめる街の新しい公園の模型づくりワークショップの実施

メンバー： 吉田 みやび(融合学域先導学類4年)
山本 歩武(融合学域先導学類4年)、山田 呼春(融合学域先導学類 3年)、金子 連(融合学域先導学類 3年)
今門 凧海(新学術創成研究科総合知創出科学専攻修士課程1年)、
菊地 由太郎(新学術創成研究科総合知創出科学専攻修士課程1年)
担当教員： 融合研究域融合科学系 講師 有賀三夏

【プロジェクトの概要】

能登地域の子どもたちが、地域や他者を意識しながら自由に表現する体験を通して、主体的に考える力を育むことを目的に実施したワークショップである。これまでのゼミ活動で学んできたSTEAM教育、デザイン思考、芸術思考、多重知能理論といった考え方をういて企画した。

日時：2025年11月23日(日)、11月24日(月) 13:00～15:00
場所：金沢大学輪島サテライト、ラボルトすず
対象：小学3年生～中学3年生
参加費：無料

【プロジェクトを立ち上げたきっかけ】

子どもの可能性を最大限に引き出す教育法やSTEAM教育の実践を、これまでの学びを通して経験してきた。これらの経験を能登の地域で生かし、将来の能登を担う子どもたちが自ら考え、表現する力を育む場をつくりたいと考え、本プロジェクトを立ち上げた。ワークショップを通して、子どもたちの創造力を引き出し、能登半島の創造的な復興につながる一助となることを目指している。

金大生と一緒に！ 11/23 (日) 13:00-15:00
みんなが楽しめる
街の新しい公園の模型を作ろう！
もしこの街に新しい公園を作るなら、
どんなものをつくる？
誰のためにつくる？
将来はどうなってほしい？
その公園がある街はどうなる？
大学生6人と一緒に考えてみよう！
お菓子あり！ 親子参加OK！ 参加費なし！ 郵便の標子
開催：タイムスケジュール
13:00～ 集合・グループ分け
13:10～ 模型作り開始
13:15～ 休憩
14:30～ 作品発表会
15:00～ 終了予定
活動紹介
融合学域の学生5名ゼミに所属し、STEAM教育を中心に学んでいる。遠征にも参加するワークショップを準備している中で、能登地域の復興をテーマにしたワークショップを開催したいと考え、本プロジェクトを立ち上げた。
お問い合わせ先
金沢大学 融合学域 先導学類4年 吉田みやび
メールアドレス: yuki@icn.kanazawa-u.ac.jp

【活動内容】

①ワークショップの宣伝

チラシ配布→輪島市立河井小学校、珠洲市立飯田小学校、輪島市内の児童館
データ配布→輪島市公式LINE、珠洲市公式LINE、能登町オープンチャット

②ワークショップ実施

制作する公園の模型の条件として、次の2点を設定した

- ・自分ではない他者のための公園を作る
- ・地域の良いところを取り入れた公園にする

→人のために考える利他性や、地域のことを主体的に考える力を促すため

輪島会場

- ・小学3年生、小学5年生の計2名が参加
- ・輪島のキャラクター「わんじまくん」がモチーフの公園
- ・小さい子どもでも安心して楽しめる公園



珠洲会場

- ・小学5年生が2名参加
- ・自分で作ったオリジナルキャラクターのための公園
- ・スポーツをする人たちが快適に過ごせる公園



③子どもたち、地域の方との交流

1日目のワークショップ後に小学生に誘われ、マリンタウン横の公園で一緒に遊んだ。実際に、能登の子供たちがどこでどのように遊んでいるのかを知る機会となった。また、地域の方から能登の現状を聞くなかで、能登地域には大学がないため、大学生世代と子供たちが関わる機会が貴重でありありがたいという意見があった。帰る際には子供との仲が非常に深まり、「また来て遊ぼうね」と言ってもらえた。



【まとめ】

- ・このプロジェクトを通じて、参加してくれた子どもたちや親御さんとの対話から、能登の町が持つ多くの魅力に気付かされた。能登に住む方々、そして能登に関わるすべての人々の中にある「能登の記憶」と共に、この町がこれからも歩み続けていくことを願っている。(山田)
- ・ワークショップでのコミュニケーションを通して、能登の子どもたちは子どもなりに地元を大切に思い、それぞれが前を向いて未来を見据えているのだと感じた。県外から積極的に支援してくれる大人たちは多くいるが、最終的に能登の未来を担うのは、能登で育った子どもたちである。だからこそ、地元の子どもたちが主体となり、地域のために何かをつくろうとした経験は、いつか震災の記憶さえ乗り越え、未来の能登で活気あふれる町をつくるための一つのピースになるだろう。そうした経験になってほしいと感じた。(山本)
- ・能登地域における大学生の存在は非常に貴重であり、ワークショップやイベントでなく、能登に行って地域と関わるだけでも大きな価値があることを学んだ。今後も多くのプロジェクトを通じて大学生との接点を増やして能登の活性化につなげてほしい。(吉田)